

RITE 設立 20 周年記念式典

～次世代への贈り物 「美しい地球のための低炭素社会」～



RITE は、平成 2 年 7 月、日本政府が世界に向けて提唱した「地球再生計画」実現の一翼を担うために、産学官のご支援のもと、この京都の地に創設され、昨年設立 20 周年を迎え 11 月 2 日に記念式典を開催しました。

午前中は約 40 名の参加者のもと本部施設見学会を催し、本庄専務理事が「20 年培ってきた技術が花を開こうとしている」と挨拶、各研究グループの研究内容の説明や実験棟などの見学を行いました。

午後からは会場をホテルグランヴィア京都に移し、記念講演、記念式典、祝賀会を開催しました。産学官など約 250 名に及ぶ関係者の方々のご参加を得て、盛大な催しとなりました。

[記念講演]

京都大学総長 松本 紘氏の「生存学と宇宙エネルギー利用」と題する講演。

[記念式典]

主催者代表、今井 敬 会長が「地球環境問題をブレークスルーする革新的技術開発にこれからは積極的に取り組み、その実用化を加速・推進する」と挨拶。また、設立 20 周年を迎えての活動スローガンとして「次世代への贈り物『美しい地球のための低炭素社会』」を紹介した。次に来賓として、経済産業大臣の大島章宏氏（代読；大臣官房審議官、西本淳哉氏）、関西経済連合会会長の下妻 博氏、京都府知事の山田啓二氏よりご挨拶を頂戴し、その後、RITE の概況説明を行った。

[祝賀会]

主催者代表、秋山喜久理事長からの開会挨拶後、設立当初お世話になった京都文化財団理事長の荒巻禎一氏（前京都府知事）からご祝辞を頂戴し、鏡開きの後、前理事長の関西電力顧問 小林庄一郎氏の乾杯ご発声後、和やかな雰囲気のもと祝賀会が行われた。祝賀会の最後に、茅 副理事長からご参加いただいた方々に出席の御礼と今後のご支援をお願いした。



本部施設見学会



記念式典

平城遷都 1300 年祭

『けいはんな学研都市発～ [平城宮跡から未来が見える]』

企画調査広報グループ

平城遷都 1300 年祭に合わせ、2010 年 11 月 5 日～7 日に平城宮跡・交流ホールにおいて『けいはんな学研都市発～ [平城宮跡から未来が見える]』が開催されました。

関西の学術都市である“けいはんな学研都市”の諸活動を、平城遷都 1300 年祭の機会に一般の方々に広く知ってもらうため、RITE を含む 9 つの研究機関が共同で出展しました。平城遷都 1300 年祭の人気にも後押しされ、3 日間で約 11,000 人の来場者がありました。

二酸化炭素の回収・貯留やバイオリファイナリーなどの温暖化対策技術、温暖化対策のシナリオ策定、産業連携・広報など、RITE の幅広い活動をパネルと展示物を使い紹介しました。また特設ステージにおいては RITE 紹介ビデオの上映や環境問題に関するクイズを出題し、一般来場者の方々に RITE の活動を紹介することができました。



革新的環境技術シンポジウム

～低炭素・グリーン化社会の実現に向けて～

企画調査広報グループ

2010 年 12 月 2 日に全社協・灘尾ホールにおいて「革新的環境技術シンポジウム～低炭素・グリーン化社会の実現に向けて～」を開催しました。

このシンポジウムは、経済産業省、社団法人日本化学会、社団法人化学工学会、社団法人日本農芸化学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、一般社団法人日本エネルギー学会の後援を受けて、RITE が主催したものです。経済産業省や環境省など政府関係者のほか、産業界・学界等から 406 名の方々にご参加いただきました。

本シンポジウムでは、RITE 茅副理事長の基調講演に続き、CCS 技術、バイオリファイナリー技術、地球温暖化対策シナリオに関する研究開発の成果と今後の展望について、世界の最新の技術動向を踏まえつつ、広く関係の皆様方に報告させていただきました。



IIASA-RITE 国際シンポジウム

システム研究グループ

2010年2月8日、灘尾ホール（東京）にて平成21年度IIASA-RITE国際シンポジウムを開催しました（国際応用システム分析研究所（IIASA）、IIASA日本委員会、RITE主催、経済産業省後援）。

今回のシンポジウムでは、海外からの招待講演者の発表2件（IIASA：Detlof von Winterfeldt 所長・Nebojsa Nakicenovic 氏）、国内からの講演者の発表4件（国立環境研究所：江守正多氏、茨城大学：三村信男教授、（有）イーズ：枝廣淳子氏、RITE 研究所長：茅陽一）、またALPSプロジェクトに関する発表（RITE：秋元圭吾）にて、最新の研究成果をご紹介いただきました。気候変動について、国際的問題解決のためにシステム分析が重要であることや、不確実性下での科学的知見、意志決定の必要性、緩和策のみならず適応策とのベストミックスの重要性、持続可能な発展のための長期的視点・国際的公平性の視点の必要性等に関するご意見を伺いました。

約230名の方に参加いただき、地球温暖化問題に関わる研究者のみならず、広く行政機関や企業等関係者の交流の場としても有意義なものになったと考えます。今後の研究・開発に役立て、一層の貢献をして参ります。



BioJapan2010(World Business Forum) セミナーおよび出展に多数の来場者

バイオ研究グループ

日経BP社とバイオジャパン組織委員会が主催したワールドビジネスフォーラムが2010年9月29日～10月1日にパフィニコ横浜で開催され、RITEバイオ研究グループが参加しました。当グループの湯川理事をモデレータに「グリーンイノベーションサミット」と題したセミナーが開催され、また、出展会場では、「RITEバイオプロセス」を中心にパネルやビデオで当グループの研究内容や成果を紹介しました。また、昨年設立した技術研究組合をはじめ、共同研究中の企業も同じブースで出展に参加されました。セミナーも含めて多くの方々にご来場いただき紙面を借りて厚く御礼申し上げます。本年も参加予定ですので、ぜひご来場いただき、バイオ研究グループの最新の研究成果をご紹介できればと考えております。



BioJapan 2010 の RITE ブース

第2回日中 CCS-EOR ワークショップ

CO₂ 貯留研究グループ

2010年4月5～6日、ホテルグランドパレス（東京）にて、CCS-EOR の日中間の技術交流を目的とする第2回日中 CCS-EOR ワークショップが RITE と中国石油の主催で開催され、日中の関係者約70名が参加しました。

政府挨拶（経済産業省石炭課、中国国家発展改革委員会気候変動司）に引き続いて、2日間にわたり、CO₂ 貯留基礎研究・CO₂ モニタリング・CO₂ シミュレーション・CO₂ 回収技術・EOR 開発実績・実証試験事例・CCUS システム・インテグレーションの最新動向について、日中の専門家より報告がなされ、活発な議論が行われました。

第1回及び第2回のワークショップ開催結果に基づき、以下の3テーマに関する日中協力を実施することとなりました。

- CCS-EOR (CCUS) 全体システムの検討
- 貯留層評価技術の検討
- 微生物利用地中メタン再生技術検討



主催者挨拶

CCS テクニカルワークショップ 2010 「CO₂ 挙動モニタリング」

CO₂ 貯留研究グループ

2010年12月9日（木）、ホテルグランヴィア京都において、CCS テクニカルワークショップ 2010「CO₂ 挙動モニタリング」を開催し（後援 経済産業省、産業技術総合研究所、電力中央研究所、エネルギー・資源学会、日本 CCS 調査）、内外の政府関係者、企業、大学、研究機関から169名の参加をいただきました。

ワークショップでは、米国リージョナル炭素隔離パートナーシップ（Texas 大 Tip 研究員）、インドネシアにおけるエネルギー政策と 4D 重力モニタリング手法の開発（バンドン工科大 Wawan 副学長）、日本における CCS 大規模実証試験（日本 CCS 調査(株) 阿部技術企画部長）、Otway プロジェクトのモニタリング結果（Cartin 大 Urosevic 教授）、Sleipner プロジェクトのモニタリング結果（TNO Rob 氏）、海域における常設海底ケーブル方式モニタリング（(株)地球科学総合研究所 高橋研究開発部長）、地震波探査データに基づく CO₂ 貯留量評価技術の開発（RITE 副主席研究員 薛）について講演がありました。

RITE 研究員によるポスターセッションも行い、CO₂ 挙動モニタリング技術について広く関係の皆様方と議論することができました。



主催者挨拶

GHGT-11（第11回温室効果ガス制御技術国際会議）2012年に京都で開催

GHGT-11 準備室

GHGT-11（第11回温室効果ガス制御技術国際会議）が、2012年11月に京都で開催されます。GHGT（International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies）は、IEA（国際エネルギー機関）実施協定の一つである IEAGHG R&D Programme（RITE が日本代表機関）による国際会議です。

2002年10月に GHGT-6 が京都で開催された際には RITE が日本側のメインホストとして携わりました。会議は基本的に北米－欧州－アジア太平洋3地域が持ち回りで、2年毎に開催されています。GHGT-11 は10年振りのアジアでの開催となり、再び RITE が日本側の主催者として、IEAGHG との共催で会議を開催します。

GHGT 会議では、温室効果ガスの制御技術について、特に近年では CCS（CO₂ 回収・貯留技術）に係る研究が中心となってきています。この分野における世界中の研究者が結集する最大級の国際会議です。GHGT-11 では、4日間の会期中、全体会議・基調講演に加え、6つ程度の技術セッションを同時併行で開催し、この間、ポスターセッションも開催します。口頭発表は全体で約250件、ポスター発表は約700件という規模になる予定です。

2011年秋頃から論文の abstract 募集を開始します。今後のスケジュールを含め、GHGT-11 の詳細情報は RITE 及び IEAGHG のホームページに掲載していきます。2010年9月にオランダのアムステルダムで開催された GHGT-10 では、参加者総数約1,600名のうちアジアからの参加者は約200名と少なかったため、日本開催となる GHGT-11 では是非ともアジアのプレゼンスを高めたいと考えております。是非、地球温暖化対策にかかわる皆様方から、多くの論文応募いただきますと共に、会議へのご参加をいただき、温室効果ガス制御技術に関する世界的な研究の進展にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. GHGT-11 の概要

- (1) 日程：2012年11月18日（日）～22日（木）（於；国立京都国際会館）
- (2) 参加者数（見込み）：1,600名
- (3) 主催：RITE 及び IEAGHG
- (4) 後援：経済産業省（予定）ほか
- (5) プログラム：
 - ・19日：基調講演（全体会議）
 - ・19日～22日：6つ程度の技術セッション併行開催、ポスターセッションも開催
 - ・22日午後：会議総括、閉会式
- (6) 関連行事：
 - ・ウェルカムレセプション（18日）
 - ・ネットワーキングレセプション（20日）
 - ・コンファレンスディナー（21日）

GHGT-10 における技術セッションのテーマ（2010年9月：於；アムステルダム）

回収 Capture	燃焼前回収、燃焼後回収、膜、技術－経済比較、酸素燃焼回収、新規システム等
利用 Utilisation	ECBM および他用途、EOR
貯留 Storage	モデリングツール、炭層貯留、リスクアセスメント、シール、塩水帯水層、フィールドスタディ、キャピラリー&溶解トラッピング等
統合 Integrated	統合 CCS システム、システム柔軟性とその必要性、CO ₂ 輸送、健康安全問題等
実証 Demonstrations	実証プロジェクト、新規展開、貯留に係る知見、得られた教訓
政策 Policy	シナリオ、政策手段
マイナス排出 Negative Emissions	大気からの回収－バイオマスと CCS、大気からの回収－鉱物化ルート
法制度 Legal	法的課題および規制の枠組
社会的認識 Public Perception	社会的認識と CCS、プロジェクトから学ぶ、コミュニケーションと CCS

2. 今後の主なスケジュール（予定）

(1) 論文募集・プログラムの作成

- ・ 2011 年 秋頃：Call for Paper オープン（論文の abstract 募集開始）
- ・ 2012 年 夏頃：採択論文の決定
- ・ 2012 年 10 月：論文提出締切り／最終プログラム確定／ホームページ掲載

(2) 参加者登録

- ・ 2012 年 春頃～夏頃：早期割引登録期間
- ・ 2012 年 早期割引登録期間終了翌日～：一般登録期間

GHGT-11 に関する RITE ホームページ：

(URL) <http://www.rite.or.jp/Japanese/ghgt11/ghgt11.html>

※ 当該ページから IEAGHG の関連ページ（英語）にリンクしています。



GHGT-11 インビテーションビデオ